

エジプトにおける Tokkatsu の導入がもたらした子ども・教師・学校の変化
—教師・Tokkatsu Officer・保護者の参加による MSC 研修での調査から—

○平田 幸男 山田 真紀 添田 晴雄 天野 幸輔 京免 徹雄
(至学館大学) (椛山女学園大学) (大阪公立大学) (名古屋学院大学) (筑波大学)

1. 目的及び MSC について

本調査は、文部科学省の EDU-Port 事業「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究」(代表は京免徹雄)のうち、プロジェクト B「児童の非認知能力育成の効果検証」(リーダーは山田真紀)の一環として行われたものである。

MSC とは Most Significant Change (「最も重大な変化」の意味)の略である。1990年代に Dr Rick Davies (英)によって考案された参加型・質的評価手法の1つで、導入したプロジェクトの効果を測るために、欧米の NGO が用いている。MSC では、参加する関係者が現場から「重大な変化」のエピソードを集め、話し合いで「最も重大な変化」を選ぶ。そのプロセスにおいて、意識・行動変容など数量化できない変化を把握したり、変化の背景を分析したりすることで、相互に学びが深まり、当該の取組の更なる改善につながるとされる。

そこで、本調査では、エジプトにおける Tokkatsu の導入がもたらした子ども・教師・学校の変化を把握するため、MSC 研修によって関係者の声を集め、分析することを試みた。

2. 実践した MSC 研修の概要

(1) 日時・場所：2023年12月25日(月)10時～11時30分 EJS ニューカイロ校

(2) 参加者：EJS 教師10名、保護者5名、Tokkatsu・Officer 5名、計20名

(3) 進め方：教師10名を2グループに分け、保護者グループ、Tokkatsu・Officer グループの4つを編成した上で、平田が進行役となり、以下①～⑤の流れで進めた。

①「子ども」「教師」「学校」のそれぞれについて、どのような変化がもたらされたのか、その変化はなぜもたらされたのかについて個人でワ

ークシートへ記入する。(25分)

②ワークシートに記載した内容をもとに、各グループで「子ども」「教師」「学校」それぞれにもたらされた最も重要だと思う変化について、その理由も含めて話し合い、まとめる。発表の準備をする。(30分)

③各グループで話し合った結果を全体へ発表する。(20分)

④発表を受けて、日本側の代表からの講評を行う。(10分)

⑤このたびの研修を通して学んだこと(理解が深まったこと)について個人で記入する。(5分)

なお、研修は終始活発に行われた。その姿勢から、改めてエジプトにおける Tokkatsu への期待と手応えの大きさを伺うことができた。また、保護者の参加が大変有意義であった。

3. 調査結果の概要

子どもに関する最も重大な変化として、「自由に表現」、「チームワークを尊重」、「探究」、「問題を解決」できるようになっている。また、「協力的」で「他者や違いを受け入れ」、また「リーダーシップ」や「責任感」が身についている。さらに、「自己肯定感」が高まって「自信」をもち、「喜んでいる」ことが挙げられた。それらと非認知能力及びエジプトで現在推進中の教育改革 Education2.0 で目指されているライフスキルとの関連については発表時に示す。

なお、MSC では「二次分析」、すなわち得られたデータの全てを用いて総括評価を行い、そこで得られた結果を分析対象者にフィードバックする。二次分析のプロセス及びその分析結果をふまえた教師や学校に関する変化に関する考察についても発表時に示す。

※本調査は、令和5年度 文部科学省 EDU-Port ニッポン調査研究の助成を受けた。